

「貫志」～最後の最後まで～

宇佐高 進路だより

No. 1 平成31年 4月12日 発行元：宇佐高等学校進路指導部



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！

☆ 新入生の皆さんは入学式をどのような気持ちで迎えたのでしょうか？おそらく期待と不安が入り交ざった複雑な心境だったのではないのでしょうか。でも、この場であえて言うておきます。何の心配もありません。皆さんには立派な先輩方がいるからです。わからないことがあれば何でも聞いてください。親切に答えてくれると思います。折角宇佐高校という場所で一緒に学ぶわけですから、お互いに助け合いながら成長していくしてほしいものです。我々教員はしっかりその過程を見守りながら、サポートしていくつもりです。新入生の皆さん、勇気をもって様々なことにチャレンジしてください！失敗を恐れずに！！

進路指導部メンバー紹介

☆ 昨年度に引き続き、進路主任になりました、立山と申します。今年度も月に1回のペースで「宇佐高 進路だより」を発行していく予定です。お忙しいとは思いますが、是非お目通しをお願いします。

今年度の進路指導部のメンバーを紹介します。

1年部	藪亀 尋子 (1-1担任・物理) 上杉 晶子 (1-4担任・国語)	安達 諒介 (1-2担任・数学)
2年部	西 弘子 (2-1担任・数学) 佐藤 隆司 (2-4担任・国語)	土谷絵里加 (2-3担任・英語) 江利角佳子 (図書館司書)
3年部	田淵 尚子 (3-1担任・国語) 立山 勇司 (進路主任・数学)	瀬尾 遼太 (3-2担任・数学) 磯辺 玲子 (進路事務)

このメンバーで1年間やっていきます。どうぞよろしくをお願いします！

「宇佐高 進路だより」を発行する理由

☆ 上にも書きましたが、この「宇佐高 進路だより」は月に1回のペースで発行していくつもりです。宇佐高校の進路に関しての情報発信をしていくのが1番の目的です。この進路だよりの内容についてご家族の中で会話をしていただけると助かります。そうした中で、疑問点などが出てきましたら、学校の方にご相談ください。お子様の進路に関して、何か少しでもお役に立てたら幸いです。

新年度が始まりました。心の準備は大丈夫でしょうか？

☆ 新1年生は、とにかくよい意味で宇佐高校になれる努力をしてください。その際、遠慮は不要ですので何でも尋ねてください。この1学期をどのように過ごすかが高校生活に大きな影響を与えるはずですが、左にも書きましたが、後悔をしないよう、失敗を恐れず何にでもチャレンジしてください！期待しています！

新2年生は、中堅学年として、宇佐高校を牽引してってもらわなければなりません。茜祭などの大きな行事は2年生が中心になって取り組むものだからです。取り組んでいく中で、当然数多くの失敗が起こるでしょう。でも、この場面でも失敗を恐れてはダメです。部活動も学校行事も勉強も積極的にチャレンジ精神をもってやってほしい。

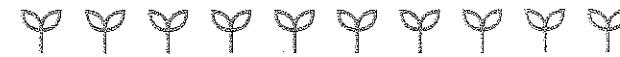
新3年生は、最終学年としてやっていく覚悟はできているのでしょうか？皆さんは昨年度の卒業生の後姿を見て、今に至っているはずですが、この先、同じように後輩たちに後姿を見せていかなければなりません。その意味で、今後、受験というものを通してどれだけ成長できるかが非常に大切になってきます。ここでは是非述べておきたいことがあります。「受験」において最も大切なことは何でしょうか？恐らく殆どの人は「合否」と答えるでしょう。勿論私も「合否」はとても大切な要素だと思います。全ての受験生は合格を目指して頑張るわけですから。でもそれと同じかそれ以上に大切なことがあると思っています。それは「受験」を通して得られる様々な経験です。上手くいかなかったり、チャレンジしたり、努力を重ねたりするその過程が高校卒業後の人生にとっての貴重な財産になるはずですが、もし、選択肢が2つありどちらかを選ばなければならない状況になったときは、よく言われることかもしれませんが、「苦しむ」と思われる方を選択してください。きっと、後になってそちらを選択してよかったと思う日が来るはずですが。

読書習慣を身につけましょう！

☆ この「宇佐高 進路だより」の第1回目で絶対に述べたかったのはココからです。皆さんは読書の大切さについてはよく耳にするとお思います。それなのに読書習慣に関して温度差があるのはなぜだと思いませんか？私はおそらく、その大切さを漠然とは理解していても、本当の意味では理解できていないからではないかと思っています。なぜかと言えば、私自身がそうであったからです。私は高校生の時に読書の大切さについては漠然と理解しているつもりでいました。しかし読書をする習慣は殆どありませんでした。大学生になり、様々なことを学ぶ中で、真の意味での読書の大切さを知った気がします。その時の後悔は忘れることができません。世の中には“大人になればわかる”ということが結構あると思います。でも、よく考えてみれば、これは非常にもったいない話です。まだ、読書習慣が身につけていないと思う人は、最初は少しずつでよいので本を読んでみませんか。宇佐高には素晴らしい図書館があります。是非とも足を運んでください。そこから何かが変わる可能性が大ですよ！「受験勉強があるから無理」などと言わないでください。あえて言うておきます。「読書も受験勉強の一部です」

※裏面も是非、目を通してください！（ドリコムブック 2018 提供）

大学入学共通テストの制度設計について



現在の大学入試センター試験（以下「センター試験」）は2020年度入試で終わり、2021年度入試からは「大学入学共通テスト」（以下「共通テスト」）に変わります。表1は2018年7月現在の情報をもとに、共通テストの制度設計についてまとめたものです。

なお、2025年度入試以降は高校の学習指導要領（カリキュラム）の改訂が予定されており、高校で使う教科書の中身が変わってしまうことから、現在の小6生以下が受験する共通テストについては、2021年度中に新しい実施方針が発表されることになっています。

ところで、共通テストに移行すると現在のセンター試験とは全く変わってしまうように思われている方もいるかもしれませんが、そういった報道も見られます。しかし、少なくとも現行の学習指導要領に基づいて実施される2024年度入試までは、現在のセンター試験をもとにして、それを改善したものと考えて下さい。したがって、過去問演習をはじめとする今までに確立されてきた対策がすべて無効になってしまうわけでは決してありません。この部分は安心して下さい。

それでは、ここで2017年度に実施された試行調査（プレテスト）の出題を見ていくことにします。注目の記述式問題は国語も数学も実社会・実生活に則した題材が用いられています。特に、国語は独立した大問が1題出題され、センター試験の現代文（評論）、現代文（小説）、古文、漢文のマーク式問題の大問4題に新たに記述式問題の大問1題が加わり、試験時間は80分から100分に20分拡大されます。

この新たに加わる記述式問題は、会話文や表や図などから複数の情報を読み取って解答を導く形式です。このような出題形式を駿台では「実用国語」と呼ぶことにしていますが、多数の情報を色々な形式で示されたものから読み取る必要があります。高度な読解力がないと時間不足になってしまいます。また、解答については、字数制限、段落の数や書き出しの指定がある「条件付記述式」となっているので、設問文に示された指示に正しく従うことが大事です。

数学は、記述式といっても証明問題や論証問題の出題はなく、解答を数式や数学的な用語を用いた文章で表すだけです。国語と同様に問題文が長くなっていることからやはり読

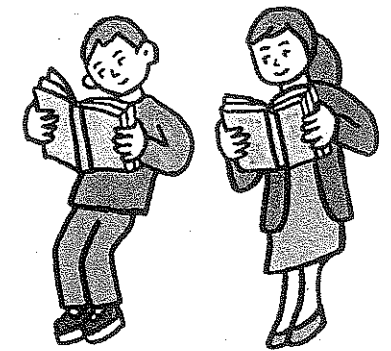
解が必要になります。数学は国語とは異なり、大問の前半はマークシート式問題、最後に記述式問題という形式になっており、記述式問題が加わることで、試験時間は60分から70分に拡大されます。

記述式問題の評価は、国語では3つの小問はそれぞれ4段階評価が行われ、これをもとに大問としては5段階評価が行われます。この5段階評価を各大学で得点に換算して200点満点のマークシート式問題の得点に換算（概ね40点～50点程度の配点が予想される）することになります。一方で、数学は正答または誤答の2段階なので、マークシート式問題と記述式問題の合計で100点満点となり、従来と同じく1点刻みの得点で示されます。

次に、マークシート式問題ですが、従来のセンター試験で出題されていた教科、科目はすべて出題されます。したがって、地歴・公民や理科における科目選択のパターンには大きな変化ないでしょう。評価も従来と同じく1点刻みの得点で示されます。ただし、先にも述べたように、「正しいものをすべて選べ」といった出題が行われるために、センター試験よりも

平均点はダウンすることが予想されます。

また、英語については民間の英語4技能資格・検定試験を共通テストの一環として利用することから、共通テストの英語は「読む」「聞く」に特化したものとなり、発音・アクセント問題、文法問題、整序作文問題等が姿を消しました。また、「筆記[リーディング]」の設問文は日本語から英語に変わりました。これらの変更が本番でも行われるかどうかは決定ではありませんが、英語の出題形式には何らかの変化があることは覚悟しておくことが大事です。



対象	・大学入学希望者(国公立大学必須、私立大学任意)
出題方針	・思考力・判断力・表現力の判定機能を強化 ・出題はセンター試験と同じ学習指導要領の範囲内。ただし解答方法の複雑化で平均点はダウン ・選抜性が高い大学が活用できるように、各設問の難易度は広範囲に設定する
出題教科・科目	・現行のセンター試験と変更なし(英語は2024年度入試までは出題)
実施日程	・実施日はセンター試験と同じく、1月中旬実施 ・マークシート式問題と記述式問題は同日日程、同一時間内で実施
マークシート式問題の改善	・当てはまる選択肢を全て選択する問題、解答が前問の解答と連動して正答の組み合わせが複数ある問題などを導入
記述式問題の導入	・「国語」「数学」で導入、採点には「民間事業者」を活用 ・結果の表示の仕方は、国語は段階別評価、数学はマークシート式と同じく正答または誤答のいずれか ・実施日は1月中旬実施
国語	・試験時間80分→100分 ・記述式の出題範囲は「国語総合」(古文・漢文を除く)で行う ・大問1題追加、最大80～120字程度の問題を含め小問3問程度 ・「実用国語」の出題(ただし、「文学的な問題」の出題を否定するものではない) ※各大学が個別試験において利用できるように記述式問題・採点基準を提供することも検討(個別試験問題の提供)

数学	・試験時間60分→70分 ・「数学I」及び「数学IA」(出題範囲は数学I)で記述式設問を出題 ・1つの大問内で前半はマークシート式問題、後半は記述式問題という形式 ・解答を数式や文章で表現する(証明問題や論証問題は出題されない)
英語4技能の評価への対応	・共通テスト(英語)と認定試験(民間の英語4技能資格・検定試験)を併用 ※国公立大学は共通テストと認定試験の両方を利用(公立大学や私立大学は各大学がいずれかを利用するか、あるいは両方を利用するかを決定)
英語認定試験の制度設計	・民間の英語4技能資格・検定試験を活用 ・民間業者からの申請に基づいて、学習指導要領に沿った出題か、全国の会場数等により認定(認定を受けた資格・検定試験＝英語認定試験) ・高3の4月～12月に2回まで受験可能で、結果の良い方を採用
試験実施回数	・年1回実施
成績の提供	・現行通り、共通テスト出願時の申請者に送付 ※自己採点制度は残るが記述式導入で精度低下の可能性あり
受験生へ 大学へ	・多様な情報(各科目の領域ごと、設問ごとの解答状況等)を提供予定 ・大学への成績提供日は現行(1月末日)より1週間遅れ
合科目型の出題	・出題しない

Point

ここが大きくなる!

- 記述式問題の導入 ▶▶▶▶▶ 国語(現代文)と数学①(数学Iまたは数学I・A、出題範囲は数学I)
- 民間の英語4技能資格・検定試験を「英語認定試験」として、共通テストの英語と併用 ▶▶▶▶▶ 4技能(読む、書く、聞く、話す)を評価
- マークシート式問題を改善を改善 思考力、判断力、表現力をいっそう重視した作問に ▶▶▶▶▶ 当てはまる選択肢を全て選択する問題、解答が前問の回答と連動して正答の組み合わせが複数ある問題など

2021



表1 2021年度入試～2024年度入試における大学入学共通テストの制度設計

(出典データ：駿台教育研究所進学情報事業部)